

京劇に詳しい方はおそらく「趙氏孤児」という有名な演目をご存知でしょう。

「趙氏孤児」は史書の「史記 趙世家」などの典籍に記載された歴史事件からできた物語です。時代は春秋中期で、晋の国が舞台です。晋王の靈公は奸臣の屠岸賈の讒言を聴いて、良臣の趙盾の一族を殺しました。

その災いから逃れることができたのは趙盾の妻・莊姫とその腹の胎児だけでした。後に莊姫が実家の晋の宮中で、男児を生んだと言うことを聞いた屠岸賈は、さまざまな手段を用いてその赤ちゃんを殺そうと企んでいました。それを知った医者チャンインの程嬰は赤ちゃんを薬箱に隠して、趙盾の友人である公孫のところへ逃れました。

屠岸賈は趙家の根を徹底的に絶とうと、国中の一歳以下の赤ちゃんを全部殺すことを命じ、途方に暮れた程嬰は公孫と策を考え、自分の妻が生んでから間もない赤ちゃんを公孫の家に託し、程嬰は公孫が趙盾の赤ちゃんを隠していると屠岸賈に告発する事にしました。結果は程嬰の赤ちゃんも、公孫も殺されました。程嬰の赤ちゃんは趙盾の赤ちゃんの身代りになったのです。その後、程嬰は趙盾の遺児を連れて山へ隠棲し、大切に育てました。



山の奥で十五年の歳月を経、孤児は堂々たる趙武と言う青年になり、忠臣たちの助けによって、国へ帰り、屠岸賈を討ち、一族の仇を追い払い、趙氏一族の復興を果したということです。

実は、「趙氏孤児」の演目は、元の時代の雑劇で演じられていましたが、その後、京劇だけではなく、中国の殆どの芝居で演じられるようになりました。「趙氏孤児」の物語が、古くから広く知られて来た所以です。

山西省太原市の北へ120キロ離れたところに、孟県と言う県があり、孟県には「蔵山」と言う有名な山があります。2000年前に程嬰が趙氏孤児を隠した山だと遠い昔から伝えられて来ました。

「蔵山」には、趙氏孤児を隠したと言われる「蔵孤



洞」、趙氏孤児を救う忠臣を賛美する古い石碑、程嬰、公孫を祭る廟、趙氏孤児である趙武を祭る「文子祠」など三十箇所の見所があり、千年にわたってお参りする人々が焚く線香の火が未だ絶えません。

この「蔵山」が本当に孤児を隠した山かどうかについては、歴史家達が是非かの論争を繰り広げて来ました。

しかし、孟県と言うところは、その昔、趙国が治めた地域の中心地であることは疑う余地のない事実です。春秋戦国

時代(B.C.770年～B.C. 221年)は、周代(B.C.11世紀～B.C. 256年)の礼儀制度を引き継ぎ、祖先を祭る事を何よりも大事なことしました。今、孟県には、趙氏孤児の趙武を祭る廟が九つもあり、この地の人々は、ずっと昔から趙武を大王、「趙武廟」を「大王廟」と呼んでいます。趙国の子孫は、2000年も前からこの山で国の祖先たちを祭り始めたと言っても過言ではないと思います。

2000年前に、忠臣たちが罪を冒して趙氏孤児を育てたため、趙の一族の血筋は保たれ、趙国の英雄といわれる、趙簡子、趙襄子、趙武靈王などが輩出しました。その後、韓、趙、魏の三家が晋国を分割するという歴史的な事件が発生、戦国の七雄の一つとなる趙国が建国し、2000年あまりも続く戦国時代の紛争の幕が開けられました。

歴史の流れは、このように偶然によるものと必然的なものが絡み合って織りなされてゆくのだと思います。